

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.24  
2014.December

発行者 琉球病院事務部長  
吉永 可公

## 院長

福治康秀(ふくじ やすひで)

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。

95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て

2014年琉球病院院長に就任。

日本病院・地域精神医学会理事。



## 基本理念

### この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

琉球病院では、行事委員会主催で行事(チャービラ際・盆踊り・ダンスパーティ・ミニコンサート)を開催しており、平成26年10月2日、第5回ミニコンサートが行われました。

今回のミニコンサートでは、外部からボランティアを招いての三線ライブ、職員による日本舞踊や名桜大学看護学生による余興が行われ、三線ライブでは八重山民謡や沖縄民謡、歌謡曲等を披露して頂きました。「安里屋ユンタ」や「十九の春」が演奏されると、一緒に歌ったり手拍子される患者様が多く見られました。最後まで静かに見学されていた方々も、カチャーシーの曲が始まると立ち上がり、ステージ近くまで駆け寄り、たくさんの患者様や職員たちが曲に合わせて踊られていました。ライブが終わると会場内は笑顔と歓声、拍手喝采で溢れていました。その後、患者様が「こんなに感動と楽しい時間をプレゼントしてもらい、とても嬉しいです。病気に打ち勝つ勇気をもらいました。ありがとうございます。」と、感謝の言葉を述べ、ボランティアの方へ花束贈呈が行われました。会場全体が感動で包まれ、演者も目に涙を浮かべられていました。当日集まった各病棟の患者様やデイケアの利用者様、職員、また出演者にとっても大変楽しく思い出深い時間を共有することができました。毎日が単調となりがちな入院患者様の療養環境に彩りを添え、見ること・聞くことの少ない音楽を鑑賞できたことは、大変有意義なものとなりました。

今回は、琉球新報、沖縄タイムスの沖縄の新聞2社から取材に来て頂きました。後日、掲載され病院のPRにもつなげることができました。

琉球新報 平成26年10月8日(水)

作業療法士 柳下 芳輝



## 診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

## 病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 80床
- ・医療観察法 37床



●アクセス  
路線バス/那覇B5(下り)または名護B5(上り)より沖繩バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分  
自動車/那覇市から40分  
沖繩自動車道金武インターから名護向け5分

## トピックス

### 行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き  
進捗状況 本体工事：請負業者 電気設備・・・(株)九電工  
機械設備・・・(株)三建設備工業  
建築(第1期)工事・・・(株)浅沼組  
建築(第2期)工事・・・(株)浅沼組
- 「包括的暴力防止プログラム(CVPPP) トレーナーフォローアップ研修(1日間)」  
日時：平成26年12月9日(火) 場所：琉球病院研修棟3F
- 「ダンスパーティー」 日時：平成26年12月11日(木) 14時00分～16時00分  
場所：琉球病院「あしびなあ」
- アルコール薬物専門病棟開設15周年記念式典 日時：平成26年12月13日(土) 13時30分～17時00分  
場所：琉球病院「あしびなあ」

### 教育・研修

## 地域医療連携室だより

当院では、司法精神医療として医療観察法病棟があります。「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察に関する法律」(医療観察法)に基づいて、指定入院及び通院医療機関としての役割を担っています。裁判所からの処遇決定を受け多職種チームによる医療を実践し、病状の安定を図り、社会復帰の促進を行うことを目的としています。退院後も通院医療チームが継続的な医療提供と地域の関係機関と連携し、再他害行為を起ささないための支援を行っています。

空床状況 11月27日現在	精神科病棟 8床	認知症 3床	アルコール 4床	児童思春期ユニット 2床
------------------	-------------	-----------	-------------	-----------------

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間  
8:30～17:15(土・日・祝日以外)  
TEL:098-968-2133(代)  
内線:231・234  
FAX:098-968-7370  
地域医療連携室直通



## 治療抵抗性精神疾患への医療

### クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は123例になりました。10月の新規導入は2例でした。重度の精神症状を持った患者様が回復され、その退院数も55例を超えています。クロザピン専門外来も3回/週行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

### m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成26年10月の治療実績3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。



## こども心療科

周囲の人たちのちよとした配慮でこどもたちの成長はかわってきます。私たちはそんな風にこどもに寄り添っていきたくらいと思ひ、日々こどもたちやご家族とお会いしています。こどものために何が出来るか、こどもと関わる皆様と一緒に考えていきたくらいと思ひます。12月の研修会で皆様にお会いできることを楽しみにしております。この機会にぜひ当院へお越し下さい。

研修会：『アートセラピー ～アートの力を借りる～』 日時：平成26年12月12日（金） 14：00～16：30（受付：13：30～）

場所：琉球病院研修棟3階研修室 講師：荒木 登茂子先生（元 九州大学大学院医学研究院教授）

日々の業務に追われて患者様と向き合うことを忘れがちな臨床現場において、非言語的な関わりにより見えてくる「何か」を学び、新たな治療関係構築を探ってみませんか。長年、九州大学心療内科で箱庭療法、サークルドローイングなどアートセラピーを用いて長年臨床に携わった荒木先生に臨床現場においていかに芸術療法を用い、それを解釈していくかご講演していただきます。

【申し込み先】 sinri@ryu-ryukyuu.jp 野村

## 認知症医療

### ＜認知症の方に対するコミュニケーション技法について＞

認知症高齢者の方が、症状の悪化により入院したり、施設に入所したりする場合、生活環境が変わり、入院や入所の理由が理解できないために混乱することがあり、入浴や排泄の時の介護抵抗が出現したり、治療を拒否することも少なくありません。そこで私たちは、物忘れや失敗を頭ごなしに否定したり、教え込もうと説得をしないこと（自尊心を傷つけない）、相手の主張を受け入れる態度で接することを心がけ、日々のケアにあたっています。

最近では、フランスのイヴ・ジネスト氏によって開発された「ユマニチュード」という新しいコミュニケーション技法が注目されています。これは、見る、話しかける、触れる、立つという4つの方法が柱となっており、例を挙げると「目の高さを同じにする」「優しく背中をさすったり歩く時にそっと手を添える」など認知症高齢者が安心するような接し方で、全部で150以上の技術があります。私どもの病棟においても、これらの技術を今後取り入れ、専門性の高いケアの提供に努めたいと考えております。

## 重症心身障がい児医療

当院では、2名の方が訪問学級に通われています。名護特別支援学校から先生が2名来て下さり、当院療育棟内での訪問授業を週2回行なって頂いております。先生方の考えられる授業内容はとても楽しそうな内容ばかりで、病棟内では体験できないことを体験できる機会を作って頂いている学校の先生方には、感謝の気持ちで一杯です。現在、重症心身障がい病棟へ契約入院されている方のうち、義務教育までしか修了されていない方が3名、就学免除という旧来の制度で義務教育未就学の方が11名いらっしゃいます。義務教育修了者の高等部への入学は、学齢超過の方でも可能となっておりますので、上記3名の方については今後訪問学級への入学を検討したいと考えています。しかし就学免除の11名の方については、学齢超過という状況で義務教育を受けることは不可能となっております。教育を受ける権利は、誰しも等しく保障されるものはずです。何とか法的な救済策で、教育機会を提供できるようにして欲しいと考えます。

## アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では10月現在、外来通院の患者様64名、入院中の患者様28名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

### ＜依存症病棟15周年記念式典＞

来る平成26年12月13日、琉球病院院内において、琉球病院依存症病棟立ち上げ15周年記念式典を行います。当日は、村上優樹原病院長（当院前院長）による特別講演を行います。また、依存症病棟を卒業した方々、各地域のアルコール依存症、薬物依存症等の自助グループの方々、当院が日頃からお世話になっている医療、福祉等行政機関の方々、また当院のOBスタッフ、現職員が参加し、交流を図る予定です。当院依存症病棟の歴史は、平成12年に4床から始まりましたが、現在では年間120名前後の方が、依存の課題に向き合うために入院されています。今後、キャンブルやインターネットなどへ依存症の概念が広がることに伴い増加するニーズに応えるため、また治療技術の改善に向け、より一層の努力をさせていただきます。

## 包括的地域精神医療（ACT）

R-ACT紹介（琉球ACTチーム）：当院のアウトリーチのチームとして、訪問看護スタッフと1チームで本来のACT（包括的地域生活支援）チームではありませんが、多職種チーム（医師・看護師・作業療法士・心理士・精神保健福祉士）が活動しています。本来のACTチームは重症の精神疾患があり、支援のすべてをチームで行う自己完結型です。365日、24時間体制を作ることができるチームです。当院の場合は、チームスタッフは全員他の業務と兼務しており、チームですべての支援をできる体制はありません。ACTの理念を生かし、個々の利用者がそれぞれの地域で安定した生活を送ることを目標とし、生活モデルの中心支援を展開します。遠隔地で訪問をしている利用者さんもあり、地域の支援者を1つのチームとして地域生活での見守りと身近に相談ができる人として関わりをお願いしています。共に寄り添いながら、利用者のしたいことや夢を応援したいと考えています。

## 臨床研究部活動状況

当院ではクロザピンによる薬物療法と並行して心理教育的アプローチや作業療法、地域との連携を積極的に行っています。こうした取り組みが統合失調症の方の認知機能の改善にも効果があると考えられています。今回、統合失調症患者の認知機能の評価として注目されているBACS-J（統合失調症認知機能簡易評価尺度）の用い方や臨床への活かし方について、日本語版を翻訳された兼田康宏先生（岩城クリニック）をお招きし、研修会を開催します。認知機能の評価を患者様の生活に還元するためにどのような介入が効果的か検討する良い機会になると考えます。興味・関心のある方は 琉球病院 心理療法室 前上里または野村までご連絡下さい。